

「いきいきはうす」訪問記

お年寄りの願いを聞き届けて とてもいい地域仕事をしています！

山極 完治（東邦学園大学教授）



みんなで食事

宅老所「いきいきはうす」

埼玉県大宮東部に「良い仕事」をしている宅老所「いきいきはうす」がある。このインタビューの目的は、なぜここが評価されているのか、を探ることであった。

その民家に到着したちょうどその時、自転車で駆けつけてにこやかに会釈をする、パワフルな感じの女性に出合った。その女性は、宅老所を切り盛りするリーダー横倉しず代さん、その人である。

この事業所は、労協で働いていた横倉さんが、一度退職して職業訓練校で1級ヘルパーの資格をとり、96年に2級のホームヘルパー講座の修了生と共に「福祉のしごとをしたい」一心で立ち上げた在宅介護サービス「ホットン」の開設がその始まり

だ。何度か解散の危機に立ちながらバザー、食事会、映画上映など出きることはみんなで担い合い、時には家族の協力も得て頑張りを続けた。99年ミニデイサービスを開始し、2000年4月に旧大宮市の生きがい活動支援通所事業を受託し、介護保険指定事業者（居宅介護支援・訪問介護）を担っている。

宅老所「いきいきはうす」は、77歳から94歳まで、1日平均5～6名、月平均110時間が利用実績であり、これを支える介護スタッフは2.5名である。

「いきいきはうす」は、広めの庭もある一戸建ての民家を活用し、家庭的な雰囲気に含まれた「なごやかさ」の中にある。食を大切にしたいというだけに、旬の栄養価も高い、彩りも良く固さや香りにも配慮した食事が作られ、大勢で食卓を囲む楽しさを味わっている。みなさんも食事を楽しみしておられる様子、一人も残さず食べていた。

それぞれの遊びや楽しさ体験を拠り所にうどんや草もちづくり、たぬきの置物づくり、手作



所長の横倉さん

りのすごろくづくりに、高齢者体操、散歩、入浴、お昼ね、そして誕生会や保育園児と一緒に楽しむクリスマス会、小旅行など多彩な取り組みを盛り込んだミニデイ、お風呂に入ると鼻歌がでたりするほど自然体の気兼ねのないつきあいを重ねている。

高齢者のニーズを受け止めて

このように「いきいきはうす」は、高齢者の声を聴き、各自の個性に見合う多様性のあるニーズをていね



利用者の漆原富雄さん

いに受け止めているようだ。利用者の漆原富雄さんは、ここが「楽園」といい、利用者の菊池末子さんは、ここが「心の窓」と感謝の声が耐えない。

これは、第1に、何よりも高齢者の目線と同じくして高齢者の肉声に応えているからだろう。利用者の3分の2の方は日中独居ですぐず、食事も一人、時にはおはよう、お休みの挨拶もない高齢者、独りぼっちで時間が止まったように感じる高齢者たちの底知れない孤独感に、この事業所はしっかりと向き合っている。人生の終末期に何でこんな思いをしなければならないのか、「最後よければ全てよし」と実感できるたまり場が是非ほしいとする「熱い志」がここにはある。

特に、足腰が弱っていても介護保険認定により一様に介護者扱いされることを嫌い、「たったひとりの自分を、一度しかない人生を」懸命に生ようとする高齢者の願いを聞き届けている「自立型」に新鮮がある。心身のバランスが崩れて、多少耳や目が悪くな

り身体が弱ってきても、精神的にはつらつとし、頭はしっかりしている高齢者の存在に独自の目を向けた、介護保険制度を補う新発想の宅老所である。

家族の思いと本人も願いとが食い違う場面が生じる高齢者の具体的な現実に向き合い、これに目をこらし、この現場と「格闘」している。「自立して」生きたいとする願いを大事にしている地域福祉事業所が「いきいきはうす」である。

役に立たない、火の消し忘れなどから、何もさせてもらえなくなる高齢者たちが、ここにきて自分を取り戻し楽しくしている。知らない土地にきて不安を抱える人、一人暮らしを続ける人にとってかけがいのない時間を共有し合う場である「いきいきはうす」は、漆原さんは「元気の泉」と称え、菊池さんは「老いて学ぶ宅老所」だとほめてもいる。

第2に、これらの活動を支える横倉さんのようないい仕事をしたいと「その気になっている」ユニークなリーダーがいて、この姿に共鳴・共感して互いに信頼しあって働くスタッフがいるから、「いきいきはうす」がいい仕事になっているのだ。自分のやってきた仕事に誇りをもってやり続けてきているリーダーは、きまってある種の存在感、強さと優しさを併せ持っている。そして、心はいつも若く、心は錦と仲間を創る利用者の中心になる人が必ず登場する。ここでは漆原さんはその人となりで、みなさんの心棒になっている。



第3に、信念を貫かれた説得力をもって臨む行政との粘り強い交

渉を通じて創りだされる行政と新しいパートナーシップ、送迎や、建物



いきいきはうす

の管理・補修、などを担うさいたま高齢協との連携、そして大家さんなど、互いのよさを引き出しあう協働関係が創りだされているから、「いきいきはうす」がうまくいっているのだろう。

こうして、支えているスタッフが教えられて、事業所が豊かになっている。また、自分たちでできることは自分たちで考え進んでやろうとする自立を基本として、食事や遊び、誕生会、庭の草むしりなど協働体験を通じて、自分一人ひとりが「つながっている」という実感が生まれている。

今後の課題

今後の課題は、元気で暮らし続ける地域環境づくりに寄与することに加えて、いずれ最後のライフステージにおける要介護認定後も、これまでの人とのつながりを継続できるように介護の場が同一地域内に整備されることが望ましい。元気なデイとケアの施設とがひとつながりになって結びつく地域の総合的な福祉環境を整備していくことが期待されている。こうしたことを視野にいれ、既に「この人たちなら間違いない」と信頼を寄せる地域の方から、木々と花に彩られた広い庭を持つ70坪の2階建ての一軒家を格安で貸していただき、これを改装して、小さくとも地域に根をはりたいと「のぎく」と名前を付け、二つ目の事業所が

スタート台にたった。

また、家事援助の果す役割を理解し、これにもっとウエートを置いた介護保険や委託内容になるよう、協力して行政との交渉を進める必要がある。しかし、同時に、委託に頼らない独自の事業開拓も欠かせない。そして、利用者の安定的な確保にむけて、地域の小学校など活用して介護教室や作品展覧会を開き、高齢者体操や料理教室、化粧やおしゃれ教室、コミュニティガーデンづくりなどを織り込んだ「新しい健康教室」などに挑戦し、事業所を地域に見えるかたちに前進させる必要が生まれてこよう。

こうした課題をやり遂げ、複合的な効果を引き出すには、行政と市民と企業との協働作業により、街のビジョンを大きく描く必要がある。地域事業所を担うリーダーたちは、それだけの高みにたって、同時に、地域ビジョンを創る提案型の市民のリーダーとしても成長して欲しいものだ。この峠を越えると、労協の未来は限りなく広がっていくことだろう。

事業所データ

企業組合労協センター事業団

埼玉・中央地域福祉事業所「いきいきはうす」

〒331-0853埼玉県さいたま市上小町1314-1

TEL 048-644-1565 (FAX 兼)



「のぎく」の概観